The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 報告　ダンスWS＋哲学カフェ |
| Author(s) | 桑原, 英之 |
| Citation | 臨床哲学のメチエ. 2004, 13, p. 26-27 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/71172 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# 報告　ダンスWS＋哲学カフェ

桑原英之

二時間のダンスWSの後、場所を移し、その参加者を主な対象とし、そこで起こったこと・経験したことをテーマにした、約二時間半のカフェである。進行役（＝岸田智、臨床哲学研究室）及び筆者他もダンスWSに参加し、また逆にダンスWS主催者の岩下さんにも哲学カフェに参加頂いた。これまでの哲学カフェと異なる点が2つある。一つは、テーマが言葉によって示されるのではなく、ダンスWSにおける身体運動の経験自体をテーマとしたこと。もう一つは、一般の参加者と立場が異なる参加者（＝岩下さん）のいる哲学カフェであったこと。ダンスWSの内容を私の感触で紹介した後、上記二点に絞り簡単に報告したい。

## A　ダンスWS

歩く、しゃがむ、寝ころぶ、起きる、転がる、吸う、吐く、いわゆるダンスの、手前の手前の、体の動きそのものを少しずつ確かめていく二時間だった。動かす、というよりも、体の動きをゆっくりと待つ。穏やかな説明、息づかい、摩擦音、開始の合図、その繰り返しの中を、静かに進む。だから逆に、体がきしむ内的反響が私にとって苦しかった。動かそうと思えばごく簡単な、当たり前の動き一つ一つに、想像以上の力みがある。自然に流れるようで、その実、体に力をふるっていたのだと後から気付いた。そうして、自身に呆れ、驚きを覚えたことがある。最後の一五分近い時間を、「立ち上がる」というただそれだけの動作にあてながら、私はついに立ち上がることができなかったのだ。

## B　哲学カフェ

a　今回、テーマが言葉によって提示されていない。再現不可能な身体運動そのものを対象としたため、立ち返るべき地点を即座に明示できない。そしてまた、身体の動きとして明確に表されたことを言葉として表象し直す作業に、参加者がどのような反応を示すのかもわからない。そういう不安があった。が、参加者の意見は率直で、抵抗も薄かったようだ。何を感じ、考えたのか、更に他人の発言に触発され、別の経験にまで話しが及ぶ。その時、最初は岩下さんが準拠点に、即ち、自分の経験を照らしあわせ、問い合わせる、参加者全員の共有する地平となっていたようだ。しかし休憩を挟み、後半、「表現」と「表出」の違いに論点が絞られた後、変化が生じる。

b　テーマに対して特別な立場にある人がいる場合の哲学カフェがどのようになるのか。ずっと気になっていたことだった。京都で行ったGTの場合でも、作家の位置づけは繰り返し議論になった。つまり作品を対象とする場合、その作家の存在は作品に対する「答え」のように受け取られかねない。対話は自ずと参加者と作家の「問い－答え」にしばられる。できればそれは避けたかった。そして今回、前半は「岩下徹－参加者」という対話の図式があった。だが後半にその関係性がくずれていく。参加者の言葉の宛先が、他の参加者へと変化していった。素人に対するプロの舞踊家という役割から離れて語りかけられ、且つ、語りかけていく、そのダイナミズムがあったように思えるのだ。

c　その理由はいまだはっきりと掴めていない。だが、冒頭に挙げた二点は今回、アーティストで交錯していたようだ。経験の言語化や再構築を促し、不在の身体運動をテーマにしながらも、皆が共有できる具体性にコミットし続ける

ことができたのは、岩下徹を介して個々の身体経験に立ち返っていたからだろう。そして問いと答えの形式は、一問一答の繰り返しのようでいて、緩やかに共通の言葉のベースをつくりあげていった。その過程で、参加者の言葉の変化と平行し、岩下さん自身の言葉にゆさぶりをかけられていたように私には見えた。ただし、そのようなことが起こり得たのは、岩下徹さんの度量の大きさに依るところも大きかった。この、対話を通じた関係の変化のダイナミズムは「表現」と「表出」の差異という論点自体に大きく影響していたと思うのだが、報告としてはとりあえずここでとどめておこう。

（くわばらひでゆき）

イラスト　山本麻紀子